

「神の選び」ということが、世界の終わりを記す聖書の言葉の中に、明確に出てきます。この言葉を聞くと、多くの人は「どうしたら、この私も選ばれた人の中に入ることができるだろうか」と考えます。聖霊の助けが無ければ、私たちはいつでも、神について、神の選びについて誤解をしてしまいます。

今朝の聖書箇所、ダニエル書にも世の終わりのしるしについて記されています。聖書が記す天地創造も終末も、いずれも理不尽です。神が一方的にこの世界をお創りになり、人間を祝福されました。そして全てに終わりをもたらすと云うのです。

神のなさり様を、私たちは理解することができません。神は神なので、私たちの想像や期待を超えて、神の御計画を実現なさいます。終わりの日、ただ神が一方的にお選びになった人々を、神は御国に向け入れて下さる、というのです。私たちの救いの根拠は、100%神の側にあるのです。神はただ恵みによって選び、変わることのない恵みの内に私たちを守り導いて下さるのです。

神が恵みによって私たちを選び、恵みによって召した。これが聖書が語り、教会が信じる福音です。神が選んでくださって私たちは命を得ます。もし、私たち自身が何かを行い、それによって救われるとしたら、それは報酬です。何かの見返りに手に入れるのですから、恵みとか賜物という言葉とは無縁です。私たちの救いが、ただ神の選びに根拠を持つという信仰は、報酬という考え方とは無縁なのです。私たちはそんなものを恵みと呼んだり、福音と呼んだりしないのです。

主イエス・キリストは、十字架に架けられる死を前にして弟子たちに、世の終わりについて語られました。弟子たちは、主イエスと一緒にいること、主イエスに従うことで神の救いを得られると期待しました。弟子たちは、ダニエル書や預言書に記された終末のしるしをよく知っていました。しかし、どうしたらその終わりの時を生き延びることができるか、確信はありませんでした。律法の定を守り、犠牲を捧げて生きる以外に、方法を知りませんでした。

宗教改革者、マルティン・ルターも、どうしたら救いの確信を得ることができるか、と考え続けた信仰者の一人でした。この夏、私が訪ね

た旧東ドイツ地域では、かつて共産党支配時代にキリスト教会は激しい迫害を経験しました。長く聖書の御言葉から離れて生きてきた人々が、日曜日に教会に集い、改めて福音に出会い、聖書の約束に目を向けるようになりました。ルターが聖書と格闘し、悪魔の誘惑と戦いながら、救いの約束を聞き取りました。そして、ただ神の憐れみ、神が与えて下さる恵みだけによって、私たちは死と滅びから解放され、命を得ることができる、と福音を再発見しました。

その後、ヨーロッパでは激しい対立と紛争が続きましたが、その根底には「この私はどうしたら救われることができるか」という問いがありました。有史以来、人間はこう問い続けてきたのです。そして主イエスは明確な答えをお与え下さり、ルターや多くの信仰者が、その答えを握りしめてきました。

ただ信仰によって救われる。ただ神の憐れみによって選びとられ、信仰を与えられ、その信仰を告白して罪の赦しの洗礼を授けられて生きる者となる。神に選ばれた、という事実は、洗礼を受けるという目に見えるしるしによって保証されます。私たちは、聖書の招きに応じて洗礼を受ける時、自分の思い込みではなくて、洗礼の事実によって救いの確かさを思い知ります。

ルターは激しい誘惑の時、悪魔よ退け！と叫びながら、「私は洗礼を受けている」と繰り返し口ずさみました。自分の決断や確信ではなくて、神の一方的な恵みの選びのしるしである洗礼の事実が、宗教改革者の信仰を支えたのです。心で信じているという内面的な信仰では突破できない不安や絶望を、洗礼という事実は突破します。救いの確かさは、私たちの内面的な信仰深さや確信でなく、教会で洗礼を授けられたという目に見える事実にあるのです。

まだ洗礼を受けておられない方は、洗礼について考え始め、準備を始め、ぜひ一日も早く洗礼を受けて下さい。もう既に洗礼を受けておられる方は、ご自身に与えられている救いの確かさを、一日一日噛みしめながら歩んで下さい。洗礼は、救いのしるしです。神は確かに生きておられます。神の約束は確実に決して揺らぐことはありません。やがて主が天の雲に乗っておいでになる時、私たちはこの約束の確かさを目で見て確認するのです。